

支部だより

京都・京星會だより (1月)

昭和9年秋誕生、明けて5歳の春を迎えた京星會は時節の風に傷められながらも頑健に育つてゐます。御挨拶までに近狀御報告致します。

○前田35糎機完成披露會 1月例會開催

京都では會員自作の望遠鏡が年々1機、2機と完成し、その完成毎に會で完成披露觀望會を催し、會員への愛機の紹介が行はれてゐるが、今回又前田治久氏の口径35糎、F 4.3といふ超弩級反射望遠鏡が完成し、その披露會が1月29日(土)夜、帝大樂友會館前廣場に於て催された。前田氏の本機製作の目的が“オリオンの大星雲觀望”にあつた爲寒い折柄ではあるがオリオンを眺めるに都合のよい今月催されたのである。臼のやうな機械が運ばれ、18時組立を終つた頃には午前中雨かと思はれた雲もすつかり去り拭つたやうな快晴。花山天文臺の諸先生及び遠く大津、大阪、兵庫より參會の藤井、高城、大口、西森、伊達の諸氏を迎へ、先づオリオン大星雲より觀望開始。縹渺白雲の如き星雲にぐつと喰込む暗黒星雲。全く寫眞の比でない。賞讃、感嘆の聲が湧く。20時觀望を中止。樂友會館に入り1月例會開始。山本博士より昭和12年の天文學上の發見進歩に就て伺ひ、新星に、彗星に、小遊星に、日食に、等々昨年中の天界の出來事を思ひ返して甚だ有益な講演であつた。後は自由な談話會に入り23時解散。

○會誌「京星」第16號發行

各方面より貴重な原稿を受け“天象と觀測”を中心とする内容を盛つた「京星」昭和13年1月號が1月25日發行された。50頁、200部發行。

目次 昭和13年の天象解説—宇野良雄、掩蔽を觀測する興味—高城武夫、流星の團體計數について—小槻孝二郎、四分儀座流星群觀測の失敗—Cosmical child、望遠鏡流星の觀測法—井上秀夫、變光星觀測を顧て—木邊成磨、小學校國定教科書に記された二分二至の時刻について—鈴木敬信、異なる星座の和名—花野耕太郎、バローレンズの作り方—淺野英之助、神戸の射場天體觀測所、小熊で時を知る法—花野耕太郎、編輯後記。

○例會案内「回報」27號發行

1月例會案内が葉書で24日發行、大津藤井天文臺昭和13年度公開豫定日及び2月例會案内が「回報」第27號として28日付で發行された。

神戸支部報告

第四回例会記録

日時 昭和13年1月14日18時より。場所 神戸市元町4, 大丸食堂別室。

出席者 山本會長を初め、次の14名。大口, 荻部, 西森, 村山, 田中, 萩尾, 井本, 佐伯, 岡林, 津久井, 柳部, 神田, 乾, 美田。

講演 荻部氏より, “Sun-spots and the Effects from the Human Standpoint” なる通俗天文書の紹介及び各章の解説及び御指導を頂く。次いで山本會長より “新発見の珍星 1937 UB” の発見観測についての痛快な天界トピックとでも云ふ愉快な話しを聞き、引いては世界の観測本部の仕事と云ふものが如何様なものかと云ふ話しを興深く承る。21時散會。

第五回例会記録

日時 昭和13年2月12日18時より。場所 神戸元町4, 大丸食堂別室。

出席者 左記7名。改發, 大口, 井本, 津久井, 萩尾, 神田, 美田。

座談 本日は山本會長の御欠席の爲め何んとなく會合の淋しさを思はる。引いては先生對帝大問題に對して色々話しに花が咲く。然し残念ながら先生より明細なる御話しを聞かぬ者のことにて唯一日も早く圓滿御解決の日の近からん事を御祈りする許り。晚餐後、井本進氏より新星の発見記録につき明細なる御調査説明を頂き非常に興を覺ゆると共に、氏の御努力の偉大なるに感ぜさせらる。次に大口氏より、肉眼にての太陽黒點觀測につき説明を受け、日中ならばフィルタ1又は古乾板にて、夕方日沒時ならば肉眼のみにて充分認め得らるゝ由。然かも目下太陽黒點極大期に相當するにつき各位の試みられむ事を勧めらる。21時少し過ぎ散會。(禾山生記)

會員動靜 井本進氏、兵庫縣武庫郡本山村岡本字高石344へ御轉宅。

中井博愛氏、御逝去の御通知を受く。

分部 坦氏、御退會の御通知を受く。

岡 隆郎氏、御住所不明。(御轉居の趣)

大 阪 支 部 通 信 (2月)

◆支部報第32號(二月1日) 用紙2頁, 150部印刷發行。

◆大阪明星商業支部の誕生 同校々友會の氣象部に併置されて居た天文部は同校出身の大阪支部幹事伊達氏の御盡力と同氏所有の11極反射赤道儀を中心として獨立し協會の支部として大阪支部と提携する事となつた。是を以つて豊中中學・市岡中學・上宮中學・大手前高女・明星商業の各學校支部と大阪支部と提携する事となる。

◆プラネタリウム評議會(二月5日) 電氣科學館と大阪支部との事業提携が最初昨年十一月中の同館屋上に於ける太陽黑點公開觀測會に兩者の共同陣を張つて以來頗に進捗し、本評議會も其一ツとして開催された。館側よりは館長始め電氣局各部長や天文部館員各位、本會側は會長始め京阪神の有志地方委員や篤志の女子會員等出席し、16時の第5回公演と17時より1時間特殊演出によるプラネタリウムを見學し、18時より地階食堂にて懇談評議會に移り有意義な兩者の意見や感想や希望の交換を遂げて21時半閉會。館側16名、本會側20名の出席あり。尙科學館と大阪支部との一層の事業提携を圖る爲に館長・經營係長と大阪支部役員會との間に直接の協議が進められて居る。

◆二月例會(二月6日) 16時半より「をぐらや」ビル内にて開會、田村幹事の司會にて先づ坂元副支部長の科外講話「鐵橋と潮汐」、花山の稻葉先生の「南京紫金山天文臺の近況」や花山の公文先生の「戰爭と星」の興味ある話、百濟先生の「望遠鏡視野中のゴースト」や宇野京星會幹事長の「小熊座は時計」の爲になる話、阪大の奥田講師の「オローラの話」や井本氏の「本邦天文學史第5講」の他所では聞かれぬ話を最後に賑やかな話題を終り、臨時役員會を開催し宮森支部長より大阪支部を電氣科學館内に設置する議題の提出あり、全役員の賛成を得て可決あり。和氣靄々裡に22時半閉會。出席者26名。

天 界 第 2 0 3 號

昭和13年2月24日印刷
昭和13年2月25日發行

〔定價金40錢〕 送料金1錢

編輯兼發行者 京都市山科、花山天文臺内(振替大阪56765)東亞天文協會(代表者山本一清)
印刷所 京都市上京區上樺木町千本東入 眞美印刷所〔電西陣3702〕
印刷者 京都市上京區上樺木町千本東入 橋本岩太郎
賣捌所 東京市芝區南佐久間町2の3 恒星社(振替東京64738)